

# 総務文教常任委員会報告

## 閉会中の委員会調査

平成19年11月20日

### 1 国体開催準備状況についての調査

#### ①今後の予定と準備状況及び問題点

今年度の全国高校スキー大会、来年度の国体にあわせ準備は予定通り進捗し、ジャンプ台の整備、リフトも完成した。

会場ごとに簡単なプレスセンターを設置し、大会ホームページを活用し、公式記録は経費削減のため委託を考えている。

広告協賛、募金は、30万円を予定しているが現在100万円の協賛がある。湯沢ライオンズクラブが西口時計塔と東口アーケードに歓迎垂れ幕を掲出、国体所要経費の3分の2は県交付金を予定しているが現在範囲が明確になっていない。

#### ②現段階における所要経費の見積額。

今年度の第57回全国高校スキー大会の町負担金はアルペン、ジャンプ分で6千522万円を予定している。来年度の国体経費は、当初1億9千万円程度としていたが、1億5千万円程度に縮小でき、3分の2は県交付金を予定している。ボラunteィアスタッフは有償とし、1日3千円とする。

### 2 中学校建設と高校用地等についての調査

#### ①高校用地、建物購入について県との協議状況

県の提示額に対して、町が今まで多額の寄付等をしてきたことによる軽減の検討を申し入れてきたが、県条例による軽減の対象にならないという回答があった。町が正式に取得を決定した段階で、土地の本鑑定を行

い譲渡価格を決定する。

文教施設用地として購入し、利用は教育委員会で検討決定する。

#### ②高校用地の第三者利用

9月末に見附の学校法人中央学園海聖高校から、高校跡地に全寮制の中高一貫教育校（40名、2クラス、6学年）をつくり平成22年4月に中学1年生を入学させたいという話があり町長、教育長、総務課長がこの学校法人の運営状況の確認を兼ねて挨拶に行つて来たという報告があった。

委員からは湯沢町の教育をどうするかが先であり、中学校建設を踏まえた中で検討が必要であるという意見やこの学校は湯沢の生徒を視野に入れていないので企業誘致と同じ考え方で



3月に廃校になる湯沢高校

よい、企業誘致的発想であれば、実績のある優良学校の誘致を考えるべきである等の意見があった。

#### ③「今後の湯沢の教育について」の検討方法及び進捗状況

湯沢中学校建設検討委員会設置要綱を改正し、委員会から再三指摘のあった、町の将来の教育を考えた中で中学校をどうすべきかを検討することとして、検討委員には小学校長5名、学識経験者4名以内、保育、

財政担当の行政職員2名を入れ19名による検討委員会とした。1年間で方向性を出して、それに基づき平成20年度に基本構想を業者委託、平成21年、22年に国、県に建設要望、平成22年か23年に建設を予定しているという説明があった。

委員からは基本構想1年は無理、町民との議論が必要、手順を踏んで進めないと話が壊れる、学識経験者の人選、教育委員会、教育長としての考え方等について多くの意見が出された。

### 3 全国一斉学力テストについての調査

#### ①湯沢町の小中学校の状況

小学校では国語、算数が全国及び県平均を下回り、中学校では国語で全国及び県レベルを上回り、数学ではほぼ平均値であったという説明があった。

#### ②結果を踏まえての教育委員会及び学校内部における検討事項と今後の指導方針